

日本きのこ学会 R&D ツアー（2024 年度）報告

2018 年度以降、コロナ禍などもあり実施できなかった R&D ツアーを実に 7 年振りとなる 2024 年 9 月 5 日（木）に（株）伯者のきのこ様（鳥取県西泊郡日吉津村）にて開催しましたので、報告いたします。

今回は、会員の皆さまが参加しやすいよう年次大会の翌日で企画しました。台風 10 号の影響を心配しましたが、幸いなことに快晴となり胸をなでおろした次第です。参加者は、大学、公設試験場、企業などから合計 49 名となり、盛況なものとなりました。

ご参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

伯者のきのこ様は、年間約 30 万菌床の各種きのこ栽培を行っており、有機 JAS や ASIAGAP 認証も取得されるなど安心・安全なきのこを安定的に生産されています。栽培ハウスは何と 23 棟保有しており、その内訳は発生用：14 棟、培養用：9 棟となっています。それらのほとんどに空調を備えていることに加え、内部に発泡ウレタンを吹き付けることによってハウスの断熱性と強度が向上するような工夫が為されていました。

きのこのラインナップは、メインのシイタケをはじめ、ナメコ、ヒラタケ、アラゲキクラゲ、タモギタケ、ヤマブシタケなどであり、当日はほぼすべてのきのこ発生を見学することができました。普段そのようなものを見る機会ほとんどないと思われるため、参加者の皆さまは興味深く見学されていました。収穫したきのこは、市場を介さないルートで有利に販売することで一定程度の価格を維持しています。また、6 次化にも力を入れており、例えば、キクラゲを原料とした化粧品のほか（サンプルは参加者に大人気！）、シイタケの軸を原料とした「きのこ革」を自動車のシート素材として利用したり、財布・名刺入れなどの小物に活用したりとさまざまな用途での利活用を模索しています。一般に、きのこは「食用」として利用することが多いわけですが、生産量・消費量を増やすためのさまざまな試みが非常に重要であることに気付かされたのではないのでしょうか。

さらに、新たな取り組みとして、栽培管理データをベースとして AI を活用したシステムをテスト導入しています。特に培養工程を対象として、温度・湿度・炭酸ガスなどのデータを測定し、それと実際の発生を紐づけることでのこ収穫量の予測を行ない、効率的な作業人員配置や出荷量調整などにつなげています。

伯者のきのこ様見学につづいて、特徴的な外観の「お菓子の寿城」で買い物をした後、日本で一番低い？と自虐している境港市のランドマーク「夢みなとタワー」で鳥取県が誇る景観「大山」「弓ヶ浜」や某自動車メーカーの CM で話題になった「江島大橋（通称：ベタ踏み坂）」を見ることができました。ランチは、隣接する「お食事処 美なと亭」でおいしい海鮮丼を堪能でき、日本屈指の水揚げ高を誇る境港の良い思い出になったのではないのでしょうか。さらに、「大漁市場ながうら」にてお土産を購入して米子鬼太郎空港および JR 米子駅にて無事解散となり、大満足の行程となりました。

最後になりましたが、今ツアーの各種調整においてご尽力いただいた會見忠則先生はじめ霜村先生、早乙女先生、尾崎先生など鳥取大学農学部の関係者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

2024 年度 R&D ツアー in 伯者のきのこ 日程
2024 年 9 月 5 日（木）

8：00 頃	米子ワシントンホテルプラザの ロビー集合
8：30～10：00	伯者のきのこ様見学
10：15～11：00	お菓子の寿城見学（お土産購入）
11：30～13：15	夢みらいタワー、美なと亭（昼食）、 大漁市場ながうら（お土産購入）
13：30 頃	米子鬼太郎空港
14：00 頃	JR 米子駅 解散

記：（株）北研・食用菌類研究所 山内隆弘



視察風景



栽培ハウス



シイタケ発生



アラゲキクラゲ発生



ナメコ発生



きのこ革を利用した自動車用シート